

研究・活動助成事業 選考結果総評

公益財団法人水・地域イノベーション財団では、2026年度水・地域助成事業<研究・活動助成事業>の選考を実施しました。本年度は、研究助成部門の専門コース11件・一般コース4件、活動助成部門の本格コース14件・一般コース5件と、いずれのコースも昨年度と比べて2倍を大きく上まわる34件の応募が寄せられました。インターネット検索を通じて知った方に加えて、関係団体からのご案内により周知が進んだことが、この増加につながったと考えられます。

以下採択した応募について概観していきます。

研究・専門コースでは、水道管の劣化や漏水を検知するために、物理モデルをAIの学習過程に組み込む手法の開発を目指す研究、森林火災が河川水環境に及ぼす影響を調査する研究、そして水文化体験の参与観察を通じて水の価値を文化的・身体的観点から可視化しようとする研究の3件を採択しました。いずれも独自性と社会的意義が高く、老朽化診断技術の高度化や、水源をダム湖に依存しながら国内の研究例の少ない環境影響の把握、体験型プログラムや環境教育への応用など、社会実装への展開が期待されます。

研究・一般コースでは、高校生による海水の葉面散布によるトマトの生育効果に関する研究、河川のワンド・タマリの生態機能を明らかにする研究、水辺評価における個人差に着目し、住民参加型の川づくりを探る研究の3件を採択しました。いずれの研究も、成果をまとめる過程で、関連する社会的課題にどのように向き合うのかが示されることを期待しています。

活動・本格コースでは、今回は国内活動での応募が多く、水場を地域のcommonsとして位置付け、事前防災と平時のコミュニティ活性化を両立させようとする取組み、能登の震災被災地にある湖を軸に創造的復興と水循環保全を進めようとする活動、河川体験を通じて参加者に「流域ステュワードシップ」の発現を促す活動の3件を採択しました。いずれも、水を共有財として捉える視点が基盤となっており、市民が主体的に関わる条件を見出すことが期待されます。海外活動では、開発から取り残されてきたバングラデシュ先住民族の村において、住民が希求する社会開発課題を明らかにし、将来の開発展開につなげようとする取組みの1件を採択しました。

活動・一般コースでは、小学校の創立記念事業の一環で、地域ぐるみで子どもたちに「探求」と「交流」の機会を提供する活動、エリアマネジメント団体が企画する地域が水と共に歩んできた歴史を紡ぐまちづくり活動の2件を採択しました。どちらも“水×地域”という本事業の趣旨に合致した取組みです。

本年度は、併せて12件の応募を採択し、採択件数は昨年度を上回り、一昨年度とほぼ同水準となりました。本事業では、ジュニア世代も主体的に研究・活動に参加することを期待して、「一般コース」を設けていますが、最近の傾向としてジュニア世代からの応募が減少傾向にあります。身近で、取組むにふさわしいテーマは少なくないことから、一般コースの趣旨がより届くよう、周知方法の見直しが必要と考えています。また、今回の応募では、応募書類、とくに申請金額内訳書が所定の形式に沿っていない応募が散見されました。限られた財源をより有効にするためにお願いしていることであり、今後の応募に際してご理解とご協力をいただきたく存じます。

当財団は、2023年3月に名称を変更し、「研究・活動助成事業」では、“水×地域”に視点を置いた研究・活動を重点的に採択していきたいと考えています。今回の応募は、その意図を十分汲み取っていただいたものと感じております。公益財団として社会の期待にお応えしていく所存でございますので、次年度も引き続き積極的なご応募をお待ちしております。

2026年6月1日

公益財団法人 水・地域イノベーション財団